

〔名字辨〕或書に、皇上御名世以偏諱記曰、二名不偏諱。稽此國典桓武朝廷延暦四年詔曰、臣子之禮必避君諱。比者先帝御名及朕之諱、公私觸犯、猶不忍聞。自今以後、宜並改避。於是改姓白髮部爲眞髮部。改山部爲山云々。光仁御名白壁、是避訓也。桓武御名山部、避部不避山、已不偏諱。又陽成朝元慶元年四月、參議大江朝臣音人奉勅議曰、古者臨文不諱、而今猶爲諱。二名不偏諱、今亦不偏諱云々。起桓武帝迄崇光帝、連々不諱。有臣下同字者、證此於左、但不竭細密、只舉兩三。按源尊氏掌握天下、驕奢日長、然當時猶有同字者、鹿苑院相國以來、不許觸犯片字、雖執柄家承彼許以得一字爲榮、況於凡庶乎。蓋偏諱彼名豈不偏諱。皇上御名乎。以是後光嚴帝以降、無同字者歟。未考其證、只享德二年、源義成以避皇嗣。○成仁門之御名改義敷、然藤原成冬以得義成當時之字不改、彼是不一。時勢可知、續而後陽成帝○御名和仁、受禪、卜部兼和改兼見、明正帝○子興受禪、平時興改時庸、後西院帝仁○貞踐祚、藤原教良同宗良源俊良、藤原隆良等改輔條景豐等字、始見偏諱。寶永四年以來、立皇嗣則避、以是可知偏諱非朝廷全盛之故實。起武臣奢侈之餘矣。とありて、桓武天皇より北朝崇光院まで、歷朝の大御名と臣下の名と同字の例を舉たり、たゞへば桓武、山部鼓吹權大令史漢部松山、平城安殿秋篠朝臣安人、大中臣朝臣氏安、嵯峨神野巨勢朝臣野魚、藤原朝臣葛野麻呂、淳和大伴藤原朝臣大津、安倍朝臣大家仁明、正良忠仁公之黨、良藤原朝臣正雄、文德道康朝原宿禰良道、百濟宿禰康保など、次々に載たり、此論誠に玄かるべし。後醍醐天皇の大御名の一宇を源尊氏がたまはりし事、太平記に見えたる、是らよりぞ偏諱のこととはおこりけんかし。

〔古今要覽稿姓氏〕避諱不及曾高

天子の御諱をさくるは、皇祖より以下をさくべくして、曾高に及ざるよし職員見ゆ、西土にては、父より高祖にいたり、いみて稱せざるなり。これは五世にして親竭るといふ義によれるならん。禮記曲禮に、捨故而諱新といふこと見えて、註に、故は高祖の諱、新は新死者之諱であるにて知ら